



地域おこし協力隊 活動状況報告



みなさま、こんにちは。地域おこし協力隊林業担い手担当の鴻野祐です。新型コロナウイルスの影響で外出自粛が続く中ではあります。山の木々の葉も芽吹き新緑の美しい季節になってきましたね。浦幌での長く寒い冬を初めて経験した私にとっては待ちに待った季節でもありません。しかしながら前回の活動報告で書かせていただいた「普通」のことが「普通」ではなくなる瞬間がこのような形でやってくるとは思いませんでした。今まで当たり前であった生活が音も立てずに消えてしまふ。以前とは全く同じの「普通」には戻らないこの状況の中で私たちは新しい「普通」を作っていくかなければいけないと感じています。

私自身や皆さんが笑顔で楽しく幸せに生活している光景が「普通」であることが一番だと思えます。それらは1つの要素だけで構成されているわけではなく、様々な要素で構成されていますし、人によって違います。友達と遊んだ、ご飯が美味しい、天気がいい、綺麗な花が咲いていた、などの多くの要素が日々の幸せを作っています。その「普通」の幸せを形作る1つの要素として、どのように自身の役割を果たせるのかという点を最近よく考えています。

今までの私はその1つとして場づくりをしてきました。人が集まることが日々の幸せになると考えていましたし、その中心に自分の家具がある、そういうものを理想としてきました。家具や空間デザインというのは物だけで完結することは決してなく、その場やそのものを使う人がいて初めて役割を果たします。私にとっての理想の「普通」とは人が自然に集まることなのではないかと思っています。



全国育樹祭記念プレート

しかしこの非常事態宣言下ではいかに人を集めないか、室内空間でどのようにして人と距離を保つかが求められています。ただ人々の意識の中から人に会って話したいという気持ちは変わることはない

この状況下でもやはり私にできることは木を使って、家具や場をデザインすること、室内空間を少しでも快適に過ごせるような提案をすること。皆さんが家にいても木や森林に触れ合えるような新しい提案をすることです。そしてこの事態が収束した時には人が自然と集まり森林を楽しめるように準備をしていきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いたします。



オンライン同窓会の様子

く、形を変えてオンラインで話したりすることができるとは今の時代だからこそできることだと強く感じました。昔は「普通」ではなかったことが今の時代では「普通」になっているんだと。

- 地域おこし協力隊 鴻野 祐 (こうの ゆう) 林業担い手担当
- 木って楽しい！森にもっと行ってみたい！と思えるようなことを、デザインや芸術を通してできないかと日々模索中です。それが実現した際にはぜひ一緒に楽しみましょう！



● 地域おこし協力隊の活動を紹介する隊員紹介 Facebook ページ
 ☆北海道浦幌町地域おこし協力隊 ⇒ <https://www.facebook.com/urahoro.chiikiokoshi>